

私たちは「ケイパビリティ¹⁾」を通して何を言おうとしているのか？

定義に向けて

人々は自分たちのポテンシャルを達成するために、健康に過ごすことができ、そして、文化的、経済的、社会的、政治的な生活に参加できる必要がある。広く言えば、人々は自分たちの生活に責任を持つためのポジションにいる必要がある。人々は自分たちが正しいと信じていることに従って、考え、決定し、行動できる必要がある。これらの能力やキャパシティー、態度のすべてのことを、私たちは人間の「ケイパビリティ」と考えている。

人々（個人であれ所属するグループのなかであれ）は、人間としてのポテンシャルを達成するために、自らのケイパビリティのなかで変化する。これはさまざまな特殊な文脈上の要因による。例えば、きれいな水や食べ物を入手する機会は、人間の現在そして未来のポテンシャルや幸福に関する決定的な要素になり得る。初等教育を受ける機会は識字率を決定し、今度は識字率が健康や、新しい農業の実践について学ぶ能力等々に対して劇的な影響をもたらすことになる。

このプロジェクトの基礎を成す仮説は、学校において専門的な知識を学ぶ機会もまた、人間のケイパビリティに影響を及ぼすことができるというものである。学問的なコミュニティーに由来する知識は、若い人々に「まだ十分でない思考について考えること」を可能にする。

私たちの研究を導く問題は以下の通りである：

- 1) どのようにすれば地理教育が人間のケイパビリティの成長に寄与することを表現できるか。
- 2) 地理教育の機会がなかった場合に、未来のポテンシャルや幸福という観点で、若い人々はどのような結果になるか。

註

- 1) 人間の成長や厚生経済学に関するケイパビリティ・アプローチは、アマルティア・センによって進められた。それは、さらにマーサ・ヌスバウムや後続の研究者らによって発展している。